

中・高6ヶ年を見通した古典の教材編成  
(その予備的調査1)

筑波大学附属駒場中・高等学校 国語科

石井 正己・石川 祐爾・石塚 修  
鹽谷 健・鈴木 信好・須藤 敬  
関口 隆一

# 中・高6ヶ年を見通した古典の教材編成

## (その予備的調査 1)

筑波大学附属駒場中・高等学校 国語科

石井 正己・石川 祐爾・石塚 修  
鹽谷 健・鈴木 信好・須藤 敬  
関口 隆一

### 1. はじめに

本校国語科では既に1977年～1980年に、中学から高校への移行期における生徒の古典学習に対する意識についての調査研究を実施している。(その成果は本校「研究紀要」15集～19集にまとめた。)それらは中3・高1を対象にしている点、生徒の側の意識を中心にしている点に特色があった。今回のプロジェクトでは、その成果をふまえてあらためて古典教材のあり方について検討し直していきたい。

この10年の間に生徒を取り巻く生活環境、価値観の変化に伴い、古典学習に対する生徒の意識にもかなりの変化が生じているように思われる。古典教材のあり方を考えるに際し、生徒の側の状況の変化を考慮しつつ、どこに焦点を据えるかについての予備的調査・研究が今年度の課題である。

まず1977年から1980年に実施した生徒の意識調査と同様の調査を行ない、この10年間の生徒の意識変化をみる。続いて、住居・衣服の名称、及び、いろはガルタの知識についての調査を行なう。これは古典を学習するにあたり、その前提となる古典的素養がどの程度のものかを知る上で基本的調査である。以下がその結果報告である。

### 2. 古典学習についての意識調査

#### —1977年の調査結果との比較—

意識調査はアンケート形式で実施した。

〔調査期日〕1991年6月

〔調査対象〕本校中学3年生120名・高校1年生161名

〔比較データ〕1977年6月、本校中学3年生117名、高校1年生153名に対し実施したもの。

〔アンケートの内容と結果〕

アンケートは複数回答も可とした。表の数字は％である。

1) 古典を学習する意義・目的はどのような点にあると思いますか。

- ア. われわれの祖先の生き方・考え方を知って、われわれ自身の生き方・考え方に役立てる。
- イ. 昔の人々の生き方・考え方と、現代の人々の生き方・考え方の違いを知る。
- ウ. わが国の歴史の具体的な事実を知り、またそれらの事実の時代的・社会的な背景を知る。
- エ. 古文独特の表現（かなづかい・言いまわしなど）や古語の意味・用語を知る。

1	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	55	33	41	30
イ	42	28	28	28
ウ	28	29	23	34
エ	20	17	32	26

2) 古典を学習して、どのような点に興味・関心を持ちましたか。

- ア. 昔の人々の生活・習慣や考え方。
- イ. 作品の内容のおもしろさ・珍しさ。
- ウ. 古文の表現方法（かなづかい・言いまわしなど）
- エ. 古語の意味・用語

2	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	50	50	41	45
イ	53	30	52	37
ウ	33	21	19	22
エ	4	7	7	9

3) 古文の表現（かなづかい、言いまわしなど）や古語についてどのように感じましたか。

- ア. たいへんむずかしいので、ほとんど興味を感じなかった。
- イ. なかなかむずかしいが、読んでいるうちに興味を感じるようになった。
- ウ. たいしてむずかしくはないが、あまり興味は感じなかった。
- エ. 思っていたよりやさしくて、興味を感じた。

3	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	11	32	14	21
イ	66	46	64	45
ウ	6	8	12	11
エ	6	4	1	1

4) 古文の文法（文語文法）について、特にどのような点に困難を感じましたか。

- ア. 用言（動詞・形容詞・形容動詞）の活用（活用の種類や活用形）
- イ. 助動詞の活用（活用の種類や活用形）や意味・用法
- ウ. 助詞の意味・用法
- エ. 敬語（尊敬・謙譲・丁寧）の用法

4	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	11	44	6	55
イ	35	36	66	56
ウ	34	36	33	43
エ	12	40	41	35

5) 今後読んでみたいと思う古典作品は、どのような種類のものですか。

- ア. 俳句・和歌・漢詩などの韻文学
- イ. 日記・紀行文学
- ウ. 随筆・評論文学
- エ. 伝説・説話文学
- オ. 軍記物語
- カ. 物語（伝説・説話・軍記物語を除く）

5	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	23	15	23	10
イ	25	10	25	11
ウ	35	8	35	16
エ	28	14	28	29
オ	52	39	52	33
カ	34	10	34	15

6) 古典の授業の方法としては、どのようなものがよいと思いますか。

㊤ア. 教師の解説・説明を主とし、時々生徒の発表をおこむ。

イ. 生徒の発表を主とし、時々教師がまとめの説明をする。

ウ. 教師の解説・説明と生徒の発表とを半々くらいに組み合わせる。

エ. 作品によって授業の方法を適当に変える。

6 ㊤	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	23	40	52	43
イ	6	8	3	3
ウ	38	6	12	10
エ	40	38	28	33

㊤ア. 全部現代語訳されたものを教材として使う。

イ. 一部原文（注釈つき）・一部現代語訳されたものを教材として使う。

ウ. 一部原文（注釈つき）・一部対訳のものを教材として使う。

エ. 全部対訳のものを教材として使う。

オ. 全部原文（注釈つき）のものを教材として使う。

カ. 全部原文（注釈なし）のものを教材として使う。

6㊸	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	1	15	3	7
イ	2	7	4	8
ウ	11	8	10	5
エ	19	19	25	21
オ	62	48	56	48
カ	8	1	4	4

㉞特に、古典の語い・文法の扱いについて、どの方法がよいと思いますか。

- ア. 作品の読解に即して、そのつど学習する。
- イ. 必要に応じてまとめて学習する。
- ウ. 一定期間、系統的にまとめて学習する。
- エ. あまり深入りしないで意味のとれる程度に学習する。

6㉞	中学		高校	
	'77	'91	'77	'91
ア	42	43	40	31
イ	22	22	24	17
ウ	44	16	39	34
エ	11	19	6	9

以上のアンケート調査結果について、簡単に整理しておく。

1)

選択肢ア・イ・ウは古典の内容面、エは語彙・語法等の表現面に属している。まず内容面であるが、アは中・高ともに、イは中学において、'77年の数字より下っており、逆にウは高校において上がっている。ア・イは「生き方・考え方」が、ウは「事実」という点にポイントがあり、この点において数字の上がり下がりのかかれ目があることは興味深い。概念的、観念的な事柄よりは、即物的、具体的な事柄に生徒の関心が向かう傾向は、後のアンケート項目でも触れることになる。エの表現面は中・高ともに数字が下がっている。これは文語文法嫌いが増していることを示すものだろう。この点についても後のアンケート項目で、より細かくみていくことにする。

2)

ア・イの内容面に対する興味・関心の方が、ウ・エの表現面に対するそれよりも強いという点

では'77年の示すデータと変わりはない。しかしが中・高ともに大きく数字が後退していることが問題であろう。'77年においては、「作品の内容のおもしろさ・珍しさ」に興味・関心を持つ生徒が半数を越えていたのが、'91年には3割程度までに落ち込んできている。このあたりに現在の古典学習の抱えている問題があるように思える。ここでは「(古典)作品の」という大まかな質問にとどまっているので、今後、より個別的にどういった作品(ジャンル)が生徒にとっておもしろいのか、あるいはおもしろくないのか、ということを考えていかねばならない。この点も、後のアンケートでもう一度触れる。なおウ・エの表現面でわずかとはいえ、高校において若干、数字が上がっているが、これは選択肢ア・イとの相対的な関係によるもので、実際には逆に厳しい状況であることが、次のアンケート項目の調査結果によって知ることができる。

3)

前項2)の表現ウ・エを一括して、学習上における困難を感じる程度と興味の持ち方とを調査した。ここでは興味の持ち方に焦点をあててみると、ア「ほとんど興味を感じなかった」、ウ「あまり興味は感じなかった」の数字が上がり、イ「興味を感じるようになった」、エ「興味を感じた」の数字が下がっている。アンケート1)のエの数字の変化と合わせれば、'77年当時に比べ、現在の生徒は古典の表現面に対しては、その学習の意義・目的も感じず、興味・関心も持てないようになってきているわけだ。古典語なくして現代語はなく、表現面の理解なくして内容面の読解は本来的にはありえないはずである。しかし生徒の意識の実態はそうした考えと逆行している。生徒にしてみれば、古典作品の表現面はわからなくても、内容さえ知ることができればよいということなのかもしれない。また興味・関心の持てない理由に、学習の困難さということもあるだろう。次のアンケート項目では、その困難さをどのあたりで生徒は感じているのかを調査している。

4)

文語文法のどこで生徒は困難を感じているのか。'77年の調査ではイ「助動詞」が最も高い数字であった。しかし'91年にはア「用言」でもかなり高い数字を示している。特に高校では〔6%→55%〕と激増しており、文語文法学習の初期の段階で、既に学習の困難さを感じている生徒が多いことは注意を要する。また中学ではエ「敬語」の数字が上がっている。日常的な個々の場面においても敬語の使い方に対する理解がほとんどできていない生徒が増している現状を、合わせて考えていくべき問題であろう。

5)

古典作品の個々のジャンルについて、生徒がどのような興味の持ち方をしているかの調査。まずほとんどのジャンルにわたり数字が下がっていることに気づく。複数回答可としてこの結果ということは、生徒の古典全般に対する興味・関心の減退をうかがわせる。

個別に見ると、オ「軍記物語」がそれでも高い数字となっており、同時に、'77年には3割を越えていたウ「評論・随筆」が大きく落ち込んでいることが目につく。1)のアンケートにおい

て、「生き方・考え方」といった観念的なことよりも、「事実」という具体的事象に生徒の意識が向かっていることを見たが、ここでの数字の変化も、そうした生徒の指向性を反映をするものと捉えることができるのではないだろうか。

また、エ「伝説・説話」が、高校でわずかながらも数字が上がっている点も見逃せない。他のジャンルがすべて数字が下がっている中であって「伝説・説話」だけが上がっているこの現象はどのように捉えればよいだろうか。「伝説・説話」といえば、近代におけるリアリズムという観点（そうした立場で古典作品を読むことの議論は、ここではひとまずおいておく。）から見れば、現実離れた荒唐無稽な内容のものが多い。そうしたものに生徒のある一定の興味が保たれていることは、古典教材を考える上で念頭に置いておいてもよいのではないだろうか。

6) - ㉔

授業の進行の主役を教師側に置くか、生徒側に置くかを調査したもの。これは特に古典の授業に限られたものではないかもしれないが、中学において、ウ「教師の解説・説明と生徒の発表とを半々」にするが激減し、逆にア「教師の解説・説明を主とし」が増えている点が要注意であろう。これは対古典学習の問題というよりは、生徒の気質や学習に対する姿勢の変化として捉え直すべきことかもしれない。

6) - ㉕

古典学習にあたり、どのような形のテキストを用いるのがよいかを調べた。ア～オまでは現行の教科書によく見られるものであり、カはあり得る形として付け加えたものである。

数字が下がってきているとはいえ、オ「全部原文（注釈つき）のものを教材として使う」がもっとも高い数字を示しているのは、生徒の側でも、授業で古典を読む場合は「原文」を、という意識が強いことを示している。しかし一方において、ア「全部現代語訳されたもの」、イ「一部原文・一部現代語訳されたもの」を使うことを望む生徒が中・高ともに増しているのは、原文だけで、ある量を読むことに対し困難さを感じる生徒が増えていることをも示していると考えられる。

6) - ㉖

これまでのアンケート調査の結果からも、生徒が困難さを感じているであろうと推測しうる文語文法の学習方法について調べたもの。

ウ「一定期間、系統的にまとめて学習する」の数字が下がり、エ「あまり深入りしない」が上がっているあたりに、生徒の文語文法学習に対する抵抗感が表れている。それでも'91年においては高校ではウの方法を希望する生徒が最も多い。これは大学受験のことを考えると、どこかで一度はきちんと文語文法を学習しなければならないということなのであろうか。

以上、'77年のデータとの比較という点をポイントにして、'91年の意識調査の結果について簡単に整理してみた。これによって、漠然と考えられていた古典離れ、古典嫌いの輪郭がある程度、



見えてきたのではないだろうか。

まず作品に即して言うと、随筆・評論が敬遠されているという点。こうした傾向は古典のみならず現代文においても指摘されることがあるようだ。観念的・抽象的な内容を読み取っていくことよりは、具体的な事実を知ったり、伝説・説話といった話の意外性、おもしろさに生徒の興味は向いている。具体的に言い換えれば、『平家物語』や『今昔物語集』・『宇治拾遺物語』にはどうにかついてくるが、『枕草子』・『徒然草』になると生徒の学習意欲は減退してしまうということだ。このことは作品ごとの文体や語法の特徴とも相関することでもある。即ち、軍記物語や説話は比較的読めた気になりやすいものが多い。調査結果からも明らかなように、文語文法が嫌いな生徒にとって、それをあまり学んでいなくても何とか読めそうな作品は、当然のことながら、取っつきやすいわけだ。

以上のことを出発点として中・高6ヶ年の古典教材の配列を考えた場合、たとえば現在、通行している教材書の古典教材の配列が生徒の意識や実状に照らし合わせた時、的確かつ妥当なものであるのかと検討し直す作業が必要になるのではないだろうか。そこで個々の作品の教材としての適否を考える前に今少し基本的な調査を続けてみたい。

### 3. 古典学習の前提となる素養調査(1)

#### －住居・服飾の名称－

古典離れの要因の一つに、文語文法の学習が、生徒にとって大きな障壁になっているということ意識調査によって見てきたが、実は文語文法学習以前に、既に生徒にとって古典は遠いものになりつつあるのではないかということを検証しようというのがここでのテーマである。つまり文法以前に、古典の本文中に出てくる語彙の段階で生徒は何のイメージも持っていないのではないかということである。教師の側にしてみれば、こんなことは日本人の常識であり説明不要と思っていた単語が、実は生徒にとって未知のものであったという経験をするのが最近増えてきたという実感がある。そこで、古典においても、現代においても用いられている日常的な基礎語について、生徒の知識を調査することにした。そこで取り上げたのが、住居と衣服に関する名称である。住居と衣服の図を示し、各部の名称を選択肢の中から選ぶという方式で実施した。

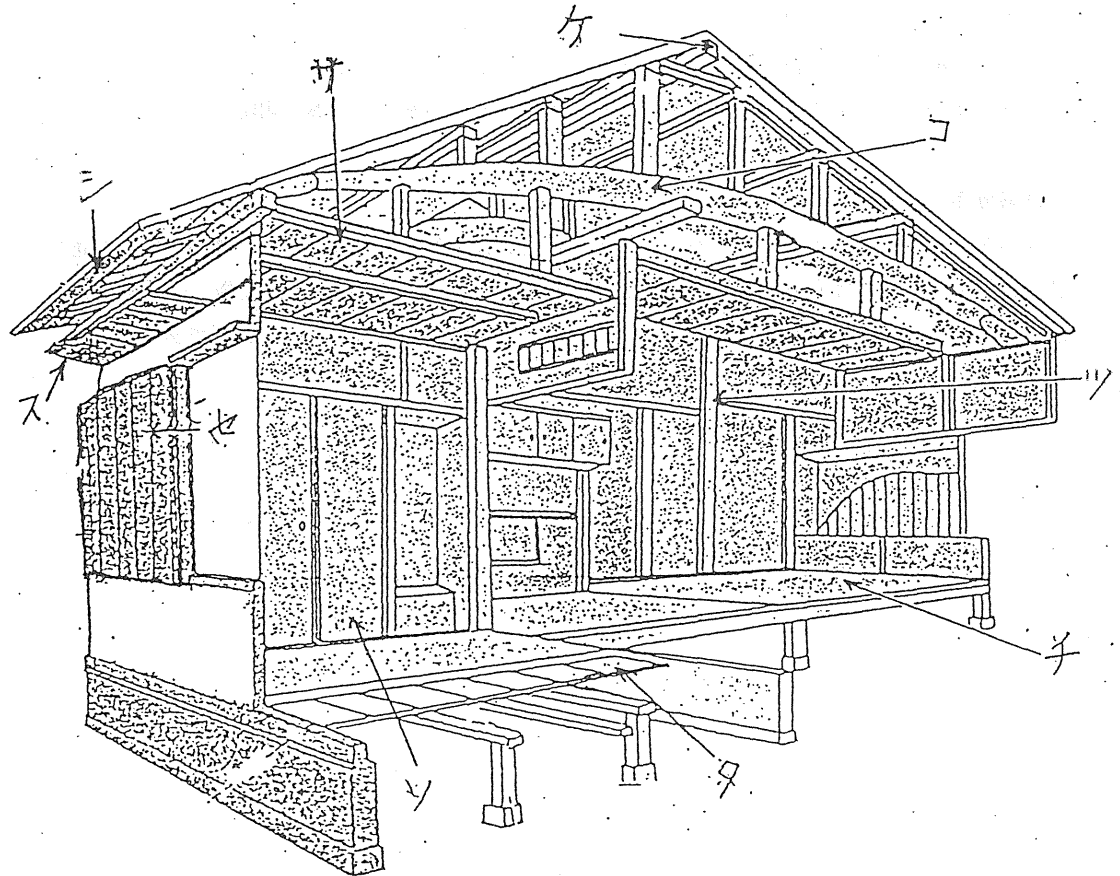
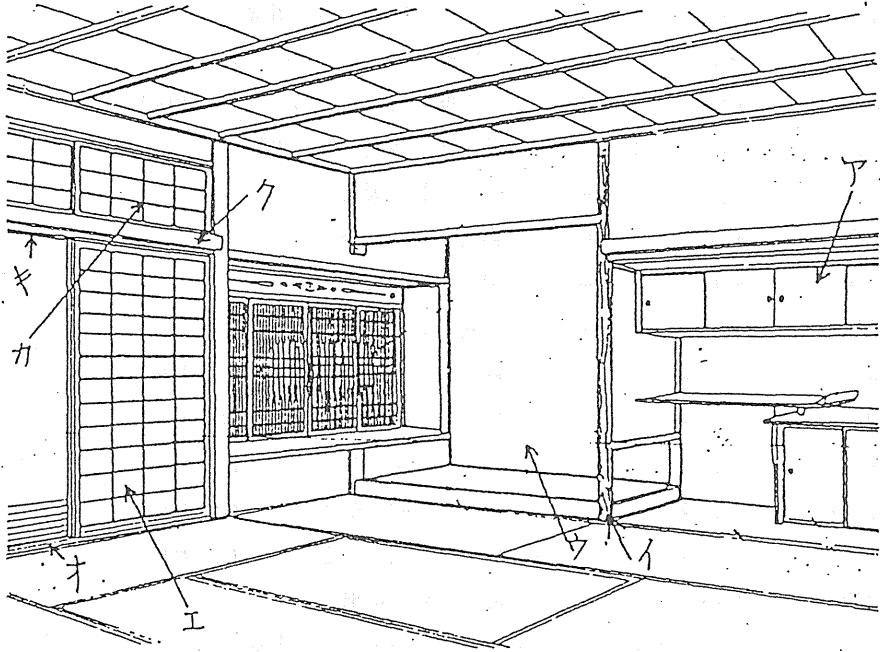
〔調査期日〕1991年9月

〔調査対象〕本校中学1年生123名・高校2年生157名

調査対象を中学1年生と高校2年生にしたのは、学年の幅をとることで、知識の量にどの程度の差がでるかを見るためである。

〔調査の内容と結果〕

次の図を見て、各部分の名称として適当と思われるものを、それぞれ一つ選び記号に○印を付けなさい。



- ア (あ, 障子 い, 襖〈ふすま〉 う, 天袋 え, 地袋 お, 書院)
- イ (あ, 床の間 い, 床柱 う, 大黒柱 え, 床框〈とこかまち〉 お, 書院)
- ウ (あ, 床の間 い, 床柱 う, 大黒柱 え, 床框〈とこかまち〉 お, 書院)
- エ (あ, 障子 い, 襖〈ふすま〉 う, 天袋 え, 地袋 お, 書院)
- オ (あ, 敷居 い, 鴨居 う, 長押 え, 欄間 お, 天袋)
- カ (あ, 敷居 い, 鴨居 う, 長押 え, 欄間 お, 天袋)
- キ (あ, 敷居 い, 鴨居 う, 長押 え, 欄間 お, 天袋)
- ク (あ, 敷居 い, 鴨居 う, 長押 え, 欄間 お, 天袋)
- ケ (あ, 棟〈むね〉 い, 梁〈はり〉 う, 軒 え, 廂〈ひさし〉 お, 天井)
- コ (あ, 棟〈むね〉 い, 梁〈はり〉 う, 軒 え, 廂〈ひさし〉 お, 天井)
- サ (あ, 棟〈むね〉 い, 梁〈はり〉 う, 軒 え, 廂〈ひさし〉 お, 天井)
- シ (あ, 棟〈むね〉 い, 梁〈はり〉 う, 軒 え, 廂〈ひさし〉 お, 天井)
- ス (あ, 棟〈むね〉 い, 梁〈はり〉 う, 軒 え, 廂〈ひさし〉 お, 天井)
- セ (あ, 戸袋 い, 板塀 う, 天袋 え, 地袋 お, 垣根)
- ソ (あ, 障子 い, 襖〈ふすま〉 う, 天袋 え, 地袋 お, 書院)
- タ (あ, 板塀 い, 垣根 う, 縁側 え, 床 お, 土台)
- チ (あ, 板塀 い, 垣根 う, 縁側 え, 床 お, 土台)
- ツ (あ, 床の間 い, 床柱 う, 大黒柱 え, 床框〈とこかまち〉 お, 書院)

(回答分布と正答率)

表の左上の数字は、各部分ごとの、それぞれの選択肢を選んだ人数である。●印を付した選択肢が正解で、そこでは右下に正答者の人数比率を示してある。即ち、「ア、天袋」は「う」が正解で、「う」と答えた生徒が「74名」おり、その数は全体の「60.1%」ということである。

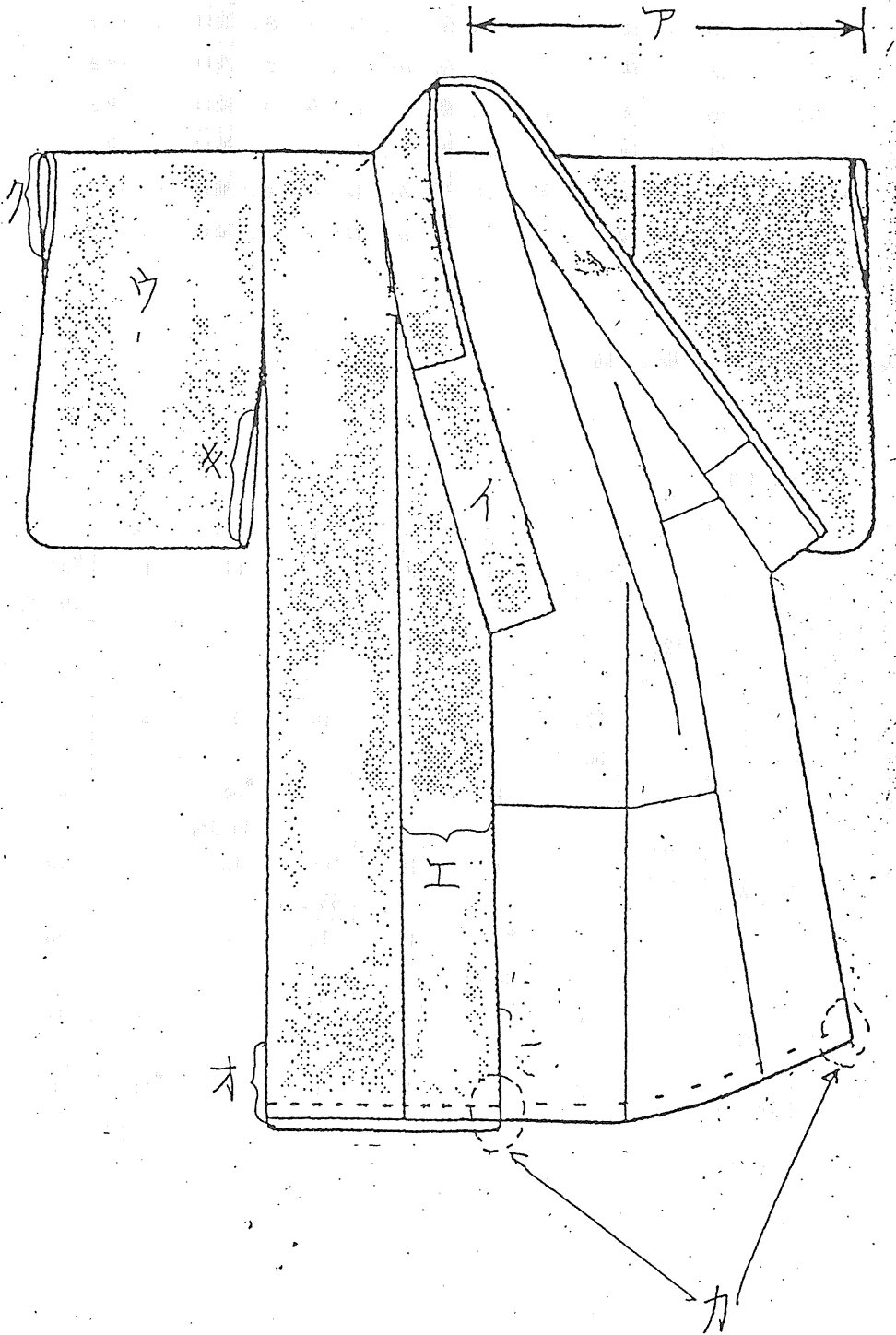
◎中学1年生

		あ	い	う	え	お
ア	天袋	1	24	●74 60.1%	6	16
イ	床柱	1	●68 55.2%	40	12	1
ウ	床の間	●71 57.7%	1		27	24
エ	障子	●118 95.9%	2	1	1	
オ	敷居	●99 80.4%	8	3	11	1
カ	欄間	4	12	26	●63 51.2%	19
キ	鴨居	4	●64 52.0%	30	14	15
ク	長押	8	28	●48 39.0%	31	7
ケ	棟	●71 57.7%	36	9	7	
コ	梁	27	●81 65.8%	6	5	4
サ	天井		1	6	2	●114 92.6%
シ	軒	10	3	●66 53.6%	40	2
ス	廂	9	3	39	●71 57.7%	2
セ	戸袋	●77 62.6%	31		4	6
ソ	襖	4	●113 91.8%	1	2	
タ	縁側	3	2	●112 91.0%	1	5
チ	床	2	2	2	●115 93.4%	2
ツ	大黒柱		51	●63 51.2%	9	

◎高校2年生

		あ	い	う	え	お
ア	天袋		16	●115 73.7%	10	18
イ	床柱	1	●91 58.3%	34	31	1
ウ	床の間	●119 76.2%			27	11
エ	障子	●149 95.5%	8		1	
オ	敷居	●137 87.8%	16	1	4	
カ	欄間		11	28	●90 57.6%	25
キ	鴨居	2	●78 50.0%	48	20	10
ク	長押	1	51	●59 37.8%	36	6
ケ	棟	●99 63.4%	44	8	5	1
コ	梁	43	●101 65.8%	3	4	2
サ	天井	1	5	1	2	●146 93.5%
シ	軒	3	4	●94 60.2%	32	23
ス	廂	3	4	49	●100 64.1%	1
セ	戸袋	●122 78.2%	28		3	2
ソ	襖	2	●148 94.8%		3	2
タ	縁側	1	1	●145 92.9%	1	5
チ	床	2		1	●149 95.5%	1
ツ	大黒柱	1	46	●90 57.6%	17	

{ 衣服 }



ア (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)  
 イ (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)  
 ウ (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)  
 エ (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)  
 オ (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)  
 カ (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)  
 キ (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)  
 ク (あ, <sup>えり</sup>襟 い, <sup>そで</sup>袖 う, <sup>つま</sup>褌 え, <sup>たもと</sup>袂 お, <sup>すそ</sup>裾 か, おくみ き, <sup>そでぐち</sup>袖口 く, ゆき)

(回答分布と正答率)

表の見方は「住居」の場合と同じ

◎中学1年生

		あ	い	う	え	お	か	き	く
ア	ゆき		49	15	8	9	14	1	●24 19.5%
イ	襟	●122 99.1%			1				
ウ	袖		●74 60.1%	7	25	10	2	2	1
エ	おくみ			44	11	7	●38 30.8%		21
オ	裾			8	10	●68 55.2%	13		19
カ	褌			●32 26.0%	13	14	30		33
キ	袂	1	1	17	●58 47.1%	10	20	3	12
ク	袖口		2		2	1	2	●115 93.4%	1

◎高校2年生

		あ	い	う	え	お	か	き	く
ア	ゆき	1	49	18	8	3	11	2	●63 40.9%
イ	襟	●151 98.0%			1		1		1
ウ	袖		●105 68.1%	10	33	2	3		
エ	おくみ		1	38	18	2	●59 30.8%	3	31
オ	裾			2	5	●126 81.8%	8		11
カ	襦			●68 44.1%	10	13	34		31
キ	袂		7	14	●79 51.2%	6	32	5	8
ク	袖口		2	1	1	1	3	●145 94.1%	1

(得点分布)

各部の名称1つ正解につき1点とし、〔住居〕18点満点、〔衣服〕8点満点とした場合の得点分布は以下の通りである。表の数字は人数。

〔住居〕

◎中学1年生

18	4人
17	5
16	7
15	10
14	11
13	14
12	19
11	14
10	15
9	8

8	10
7	2
6	4
5	
4	
3	
2	
1	
0	

平均12.0点  
得点率66.6%

◎高校2年生

18	4人
17	6
16	16
15	22
14	22
13	20
12	21
11	18
10	13
9	5

8	3
7	1
6	
5	2
4	2
3	1
2	
1	
0	

平均12.8点  
得点率71.4%



〔衣服〕

◎中学1年生

8	5人
7	4
6	21
5	20
4	32
3	31
2	9
1	1
0	

平均4.3点

得点率53.7%

◎高校2年生

8	24人
7	2
6	39
5	29
4	30
3	24
2	3
1	3
0	

平均5.1点

得点率63.0%

以上の調査結果について、若干の考察を加えたい。

全体的には、中学1年生と高校2年生との間ではそれほど大きな差は見出せない。平均点で1点と開いておらず、こうしたことに関する知識は、中学から高校にかけてほとんど増えていない。別の見方をすれば学ぶ機会もなかったということであろう。和服が日常的な衣服ではなくなりつつあり、また住居も、本校生徒の通学区域では集合住宅が増え、いわゆる日本家屋での生活経験が少ない現状にあってはやむを得ないことであるかもしれない。しかし逆に教師の側は、日本的なもの＝常識、という枠組みを取り払い、日本的なものが、生徒の日常感覚では捉えられなくなっているという現実をきちんと押さえておく必要がある。またそうした認識に立って古典の授業を考えなくてはならなくなっていることを知るべきであろう。

ではもう少し個別に見ていきたい。まず住居であるが、中・高ともに、9割以上の正解があったのは「障子」「天井」「襖」「縁側」「床」だけである。逆に最も正解が少なかったのは「長押」であった。また「軒」にしても中学で53%、高校で60%という正答率の低さである。たとえば次のようなテキスト、「軒を争ひし人の住居、日を経つつ荒れゆく」（『方丈記』）、「もししきや古き軒端のしのぶにもなほあまりある昔なりけり」（『百人一首』順徳院）を読む場合、4割から5割の生徒は「軒」がわからないため、情景をイメージ化できないということになる。即ち、教室において教師は「軒」を説明しなければならぬわけである（現行の教科書で「軒」に注を付けているものがあるだろうか）。また「長押」は、特に中古文学において、空間を区切る（物理的にも、象徴的な意味においても）重要な役割を果たしているが、これも、現在とやや用いられ方が違うとはいえ、ていねいな説明が必要となる。

次に衣服の場合。9割以上の正解があったのは「襟」「袖口」だけである。一方、「袖」「おく

み」「袂」の区別がつかない生徒がかなり多いことがわかる。最も正解が少なかったのは「褌」である。これも次のようなテキスト、「唐衣着つつ馴れにしましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ」（『伊勢物語』9段）では、「つま（褌）」を説明しなければならないことになる。しかし「おくみ」を知らない生徒に「褌」を言葉で説明するのはなかなか難しい。ましてや次のようなテキスト、「いとほのかに御衣のつまばかりを見奉りし春の夕べ」（『源氏物語』若葉上）において、「つまばかりを見」というその視線がもたらす情調は味うべくもない。

生徒がなかなか古典の世界になじめない、教師もなかなか古典の心髄にまで話を進められない、こういうもどかしさは、実は語彙レベルで始まっており、しかもそれは住居や衣服に関わる日常的な基礎語の段階から始まっていることを具体的な数字で押さえることができたのではないだろうか。

#### 4 古典学習の前提となる素養調査（2）

##### －いろはガルト－

中学1年生がどの程度、古典に関わる興味関心を持っているかを調べる目やすとして、今回は「いろはガルト」をどれ位知っているかを調査した。何故に「いろはガルト」でなくてはならないか、どうして「いろはガルト」を知っていることが古典学習への興味関心の高さへと連係しているのか、という疑問の声は当然あるかと思われる。そこで、ここでは、その理由について述べておくこととする。

「いろはガルト」は言うまでもなく、ことわざの集められたものである。言い換えるならば、日本人が祖先から受け継いできた伝統文化が、短い句によってまとめ上げられているものの集まりと言えよう。我々の祖先が自分達の生活の中から気付き拾い集めた世態風俗の機微や知恵を短い言葉で表現してきたものなのである。それを、どの程度、現在の中学1年生が継承して、自分の言語生活の中に取り込んでいるかということは、古典の学習に際しては、大変に興味があることと考える。古典への生徒の興味関心の度合いが、どの程度であるのか、それを予測するために「いろはガルト」は好材料であると考えたのである。もしも、祖先の残してきたものへの興味関心が高ければ、古典の学習意欲も当然高まってゆくはずである。しかしそうした興味関心が乏しいとするならば、教師の側としても、かなりの力を入れてその興味関心を喚起しなくてはならないと言えよう。

また、実際の古典の言語事項学習にあっても、短くて、しかも身近な例として役立てられるものが「いろはガルト」の中からいくつか挙げられる。たとえば、「犬も歩けば」や「楽あれば」の「ば」の用法や、「負けるが」の連体形の用法、「好きこそ」の係り結びの法則など、実際の授業で用いられるものもある。

以上に述べた点から、「いろはガルト」を調査することによって、中学1年生における古典学習への興味関心の一つの目やすとしようと考えたわけである。

〔調査法〕

別表(1)のように「『いろはガルト』に挑戦」と題して、1991年11月中学校1年生全クラス122名を対象に実施した。時間は、約40分間として、学校裁量時間をこれに充てた。書き方は、自分で「いろはガルト」のことわざと思われるものを、2つまで、すなわち関東と関西のそれぞれの形式は認めることとした。また、不明の欄については、テストではないので無理に補充しなくても支障のないことを事前に伝えた。

別表(1)

「いろはカルタ」に挑戦

年	組	番

い		ら		ゑ
ろ		む		ひ
は		う		も
に		ゑ		せ
ほ		の		す
へ		お		○知っていることわざを入れてみよら。
と		く		
ち		や		
り		ま		○君たちの家に「いろはカルタ」がありますか。
ぬ		け		ア. ある      イ. ない
る		ふ		○君たちの家に「百人一首カルタ」がありますか。
を		こ		
わ		え		
か		て		○今までに「いろはカルタ」をやったことがありますか。
よ		あ		
た		さ		
れ		き		「ある」と答えた人はどこでやりましたか。
そ		ゆ		ア. 家庭で      イ. 幼稚園で
つ		め		ウ. 小学校      エ. 友だちの家で
ね		み		オ. その他 (                  )
な		し		

〔いろはカルタ〕アンケート集計結果)

Q 1, いろはカルタが家にありますか。

ア, ある 42人 (34.4%)

イ, ない 80人 (65.6%)

Q 2, 百人一首カルタが家にありますか。

ア, ある 95人 (77.9%)

イ, ない 27人 (22.1%)

Q 3, いろはカルタをやったことがありますか。

ア, ある 61人 (50.0%)

イ, ない 61人 (50.0%)

Q 4, Q 3 でア, あると答えた人は, どこでやりましたか。(複数可)

ア, 家で 35人 (57.4%)

イ, 幼稚園で 11人 (18.0%)

ウ, 小学校で 17人 (27.9%)

エ, 友だちの家で 6人 (9.8%)

オ, その他

おじいさんの家で 2人

中学クイズ研究会 1人

忘れた 1人

正答数 (122人中)

い	犬も歩けば棒に当たる 一寸先は闇	117人 (96%) 1人 (0.8%)
ろ	論より証拠	78人 (64%)
は	花より団子 針の穴から天井をのぞく	96人 (78%) 1人 (0.8%)
に	憎れっ子世にはばかる	30人 (25%)
ほ	仏の顔も三度 骨折り損のくたびれ儲け	32人 (26%) 16人 (13%)
へ	尻をひって尻つぼめ	2人 (1%)
と	豆腐にかすがい 年寄りの冷水	10人 (8%) 2人 (1%)
ち	塵も積れば山となる	113人 (93%)
り	りちぎものの子だくさん	0人 (0%)
ぬ	ぬかに釘 盗人の昼寝	51人 (42%) 3人 (2%)
る	類をもって集まる 瑠璃も玻璃も照せば光る	2人 (1%) 10人 (8%)
を	老いては子に従え	1人 (0.8%)

わ	笑ふ門には福来たる われ鍋にとぢ蓋	31人 (25%) 3人 (2%)
か	蛙の面に小便	1人 (0.8%)
よ	よしのずいから天井をみる 夜目遠目笠の中	17人 (14%) 1人 (0.8%)
た	旅は道づれ 立て板に水	10人 (8%) 5人 (4%)
れ	良薬口に苦し	1人 (0.8%)
そ	袖振り合うも他生の縁 総領の甚六	1人 (0.8%) 1人 (0.8%)
つ	月夜に釜をぬく	1人 (0.8%)
ね	猫に小判 念には念を入れ	87人 (71%) 4人 (3%)
な	泣き面に蜂	52人 (42%)
ら	楽あれば苦あり 来年のこと言へば鬼が笑ふ	16人 (3%) 2人 (1%)
む	無理が通れば道理ひっこむ	11人 (9%)
う	嘘から出たまこと	29人 (24%)

ゐ	芋が煮えたも御存知ない	1人 (0.8%)
の	喉元過ぎれば熱さ忘るる	19人 (16%)
お	鬼に金棒	76人 (62%)
く	臭いものにふた 腐っても鯛	33人 (27%) 2人 (1%)
や	安物買いの銭失ひ 暗夜に鉄砲	12人 (10%) 1人 (0.8%)
ま	負けるは勝ち まかぬ種は生えぬ	29人 (24%) 1人 (0.8%)
け	芸は身を助ける	1人 (0.8%)
ふ	武士は食はねど高楊子	1人 (0.8%)
こ	子は三界の首っかせ	0人 (0%)
え	得手に帆をあげ	5人 (4%)
て	亭主の好きな赤烏帽子	1人 (0.8%)
あ	頭隠して尻隠さず 足元から鳥が立つ	51人 (42%) 1人 (0.8%)
さ	三遍回って煙草にせう	2人 (1%)
き	聞いて極楽見て地獄	7人 (6%)

ゆ	油断大敵	7人 (6%)
め	目の上のこぶ	32人 (26%)
み	身から出たさび	48人 (39%)
し	知らぬが仏	21人 (17%)
ゑ	縁は異なるもの	1人 (0.8%)
ひ	瓢箪から駒が出る	14人 (11%)
も	餅は餅屋 門前の小僧習はぬ経を読む	8人 (7%) 11人 (9%)
せ	背に腹はかへられぬ	9人 (7%)
す	好きこそ物の上手なれ 雀百まで踊り忘れず	19人 (16%) 12人 (10%)

誤答例 (○中数字は人数)

い	石の上にも三年・犬が向きゃ尾は東西 ① いわぬが花・石橋を叩いて渡る②
ろ	ローマは一日してならず②
は	早起きは三文の得④ 馬脚をあらわす③ 歯に衣着せぬ② 腹八分目に医者いら ず・背水の陣・疾きこと風のごとし・発 明は1%のひらめきと99%の汗である①
に	二階から目薬⑨ 二兎を追うもの一兎 も得ず⑤ 二度あることは三度ある③ 逃げるが勝ち② 二足のわらじ・似た りよったり①
ほ	坊主憎けりゃ袈裟まで憎い② ほっぺ たがおちる①

へ	下手の横好き⑯ 下手な鉄砲も数打ちゃ当る④ 下手な考え休むに似たり・へそで茶をわかす② ペンは剣より強し①
と	とびが鷹を生む⑳ とらぬ狸の皮算用⑫ どんぐりの背くらべ⑩ 灯台元暗し⑦ 虎の威を借る狐⑤ となりの花は赤い・飛んで火に入る夏の虫③ 時は金なり② となりの芝は青い①
ち	竹馬の友①
り	良薬は口に苦し⑮ 両手に花④ 流水先を争わず・李下に冠を正さず①
ぬ	濡れ手に粟⑧ 盗人とらえて縄をなう①
る	類は友を呼ぶ④ 瑠璃も光れば玉となる①
を	尾をふる犬はうてぬ①
わ	渡る世間に鬼はなし⑯ 渡りに舟①
か	かっぱの川流れ⑭ かわいい子には旅させよ⑮ 壁に耳あり障子に目あり⑮ 蛙の子は蛙⑥ 果報は寝て待て・勝って甲の緒を締めよ④ 飼い犬に手をかまれる③ 亀の甲より年の功② 甲をぬぐ・火中の栗を拾う・枯木も山の賑わい①
よ	弱り目にたたり目④ 寄らば大樹の陰③ 宵っばりの朝ねぼう・羊頭狗肉・余の辞書に不可能はない①
た	棚からぼた餅⑩ 立つ鳥跡をにごさず⑦ たで食う虫も好き好き② 旅の恥はかきすて・対岸の火事・短気は損気・宝の持ちぐされ・鯛の尾よりも鯛の頭・たぶんと言えは嘘つかずにすむ・他人の花は赤く見える①
れ	
そ	備えあれば憂いなし③ 空からぼたもち①

つ	月とすっぽん⑭ つるの一声⑩ 月夜に提灯⑤ 爪に火を灯す③ 鶴は千年 亀は万年② 爪の垢①
ね	寝耳に水⑰ 猫の手も借りたい③ ねこにかつおぶし①
な	情は人のためならず⑩ 七転び八起き④ なしのつぶて② なくて七癖・習うより慣れろ・七度たずねて人を疑え・長いものには巻かれよ①
ら	
む	昔とった杵づか③ 無我夢中・村八分・胸おどらす①
う	馬の耳に念仏⑰ 瓜のつるになすびはならぬ⑦ 嘘も方便⑥ うどの大木④ 嘘つきは泥棒の始まり・嘘をすれば影② うなぎのぼり・雲泥の差・鶉のまねをする鳥①
ゐ	井の中の蛙⑬ 一難去って又一難・急がばまわれ・石橋を叩いて渡る・石の上にも三年・犬も歩けば棒に当たる② 一寸先は闇①
の	のれんに腕おし⑮ 能ある鷹は爪をかくす⑯ 残り物には福がある①
お	鬼の目にも涙⑨ 親が死んでも食休み・溺れる者はわらをもつかむ・屋上屋を架す・丘に上った河童・親の心子知らず①
く	口は災いのもと④ 苦しい時の神だのみ② 空腹はただの豆をアーモンドに変える・くぎをさす・苦あれば楽あり・首を長くして待つ①
や	焼け石に水⑭ やぶから棒⑦ 柳の下のどじょう⑤ 闇夜の鳥② 病いは気から・柳に風・やぶへび①
ま	馬子にも衣装⑫ 待てば海路の日和あり⑤
け	けがの功名⑫ 犬猿の仲⑥ 計足りが



	たくて至りがたし・けんか両成敗・鯨飲馬食①
ふ	豚に真珠⑥⑦ 覆水盆に返らず④ 豚もおだてりや木に登る・古きを温ねて新しきを知る・風前の灯①
こ	弘法も筆のあやまり⑥⑨ 転ばぬ先の杖⑦ 紺屋の白袴・コロンブスの卵③ 後悔先に立たず② 腰をぬかす・子供は風の子・五里霧中・虎穴に入らずんば虎子を得ず・郷に入りては郷に従え・困った時の神だのみ・転んでもただ起きぬ①
え	絵に画いた餅④ 縁の下の力持ち⑩ えびで鯛をつる③
て	出る杭は打たれる⑭ 手塩にかける・テコでも動かぬ③ 手に余る・鉄は熱いうちに打て・天井から目薬・天に向かってつばをはく・天知る地知る人ぞ知る①
あ	青菜に塩⑬ あぶはち取らず⑪ 悪事千里を走る⑧ あとは野となれ山となれ⑥ 雨降って地固まる③ 雨だれ石をうがつ② 暑さ寒さも彼岸まで・秋の日はつるべ落とし・
さ	さるも木から落ちる⑥⑦ 三人寄れば文珠の知恵⑮ 山椒は小粒でもびりりと辛い・三十六計逃げるにしかず③ 三度目の正直② 塞翁が馬①
き	窮鼠猫をかむ⑪ きじも鳴かずに撃たれまい④ 京の夢大阪の夢・机上の空論② きりんも老いれば駄馬にも劣る・聞くは一時の恥・漁父の利・九死に一生を得る・昨日の味方は今日の敵①
ゆ	湯水のごとく使う②
め	目くそ鼻くそを笑う⑳ 目には目を齒には齒を④ 目は口ほどにものを言う② 目から火が出る①
み	三つ子の魂百までも⑤ 三日坊主・ミイラ取りがミイラになる③ みそもく

	そも一緒②
し	朱に交われれば赤くなる⑫ 釈迦に説法⑩ 上手の手から水がもれる・失敗は成功のもと④ △七転び八起き③ 獅子は子を谷に落とす② 庄屋の白袴・死人に口なし・正直者の子だくさん・親しき仲にも礼儀あり①
ゑ	絵に画いた餅①
ひ	人のふり見て我がふり直せ⑧ 人のうわさも七十五日⑪ 百聞は一見にしかず⑥ 人を見たら泥棒と思え・火のない所に煙は立たぬ④ 火に油を注ぐ・人の口には戸は立たぬ・百発百中・冷や飯食い・非の打ちどころがない①
も	桃栗三年柿八年⑤
せ	せいては事を仕損じる⑫ 船頭多くして船山に登る⑬ 千里の道も一歩から⑦ 精神一倒何事か成らざらむ・善は急げ・△先ずれば人を制す①
す	雀の涙⑩ 過ぎたるは及ばざるがごとし⑥ 住めば都② 粋も甘いもかみ分ける・すき腹より良いソースはない①

- (注) 1. 表中△を付したものは、読み方等に誤りがあると思われるものである。
2. 正答例は古典教材の研究という本プロジェクトの性格を考慮し、歴史的仮名遣いで統一した。従って〔考察〕でも触れたようにことわざ自体の知識の有無がデータにそのまま反映しているわけではない。
3. 教育的配慮から差別的表現の含まれることわざは除外した。生徒の解答例の扱いも同様である。

〔考察〕 ことわざの知識の背景を広いとするか狭いとするかは、先程の正答例と同様に様々な見方が可能であろうかと思う。

まず、50%以上の生徒が正答できたものを見てみると、「犬も歩けば棒に当たる」「論より証拠」「花より団子」「塵も積れば山となる」「猫に小判」「鬼に金棒」と6項目となっている。この47項中6項が果して多いか少ないのかは、その基準の置き方によってそれぞれの見方があると思うが、単純に考えてみれば、けっして多いと言える数ではないと思う。すなわち、中学1年生の共通の知識として「いろはガルト」を前提とするのは、困難を伴うといえるのではないだろうか。これ位のことわざは知っているはずだという前提を教師が持つことには大分、無理があるようである。また、「い」「ろ」「は」の項目に正答が多いものの、それ以外となると少ないことにも注目すべきであろう。文字通り「いろはガルト」は、「い」「ろ」「は」までしか知られていないという実態は、「いろはガルト」は、もはや家庭での文化継承の中では息づいていないということを示すものである。国語常識として「い」「ろ」「は」程度は教えられて知っているものの、それ以外のことわざは、多くの家庭生活の日常からは失なわれつつあるといえるのではなかろうか。このことは、古典教育の導入期の指導を考える上で大切なことと言える。実際に教室で古典を扱ってゆく時、教師の意識と生徒の実態との間に大きな隔たりのあることを考えなくてはならないからである。この程度のことわざは知っているはずであるという論法は通用しないと考えて、「いろはガルト」も、すでに、古典の導入教材としてもよい程度の定着率であることを認識しておく必要があると言えよう。

「いろはガルト」という体系的知識ではないものの、ことわざとして生徒が知っているものはどの程度あるかは、別表(2)の誤答例によって見ることができる。30人以上が挙げたものを見てみると、「二階から目薬」「かわいい子には旅させよ」「かっぱの川流れ」「棚からぼた餅」「月とすっぽん」「馬の耳に念仏」「のれんに腕おし」「豚に真珠」「弘法も筆のあやまり」「さるも木から落ちる」の10例となる。この中で「馬の耳に念仏」は、「うま」を「むま」とする歴史的仮名遣いの知識が無いための誤答であるので、むしろ知識の面から見れば知っているというべきかも知れない。同様のことは、「れ」の「良薬口に苦し」でも言える。「ゐ」「ゑ」の項の正答の低さも、やはり同じように、歴史的仮名遣いの未習であることによるといえよう。

別表(2)を見てことわざに関する知識の背景を広いとするか狭いとするかは、先程の正答例と同様に様々な見方が可能であろうかと思う。しかし、多くのことわざを知っている反面、生徒が共通した理解を持っていることわざが少ないということは明らかであろう。このことは、「いろはガルト」同様、生徒が共通の知識の基盤を持ち得ていないことを示していると言えよう。ことわざ自体から、生徒の言語生活がかなり遠い所にあることを如実に物語っているのではなかろうか。

## 5. おわりに

近年、国際化が唱えられることが多い。何をもって国際化と呼ぶのか、そうしたことを認識するための思考の基盤・立脚点として日本文化を自覚化する作業は欠かせないものとなっている。

そうした作業のために古典は有益なテキストとなるはずである。しかし今回の調査により、現代の中・高校生においては、古典から、ある日本的「風景」を再構成するための素養が著しく低下していることが明らかになったと思う。こうした現実をふまえた上で古典教材の選択・配列があらためて発想される時期ではないだろうか。次年度以降は従来の教科書教材として用いられてきた個々の作品について、その適否を検討しつつ、新たなる教材を試行的に授業に取り入れていきたい。